

CLQになったら

セルフチェック



B B F (Business Brain For U) は経営の羅針盤の役割をします

コンサルの見方が

あなたの味方になる

(株) BBF (Business Brain For U)
代表 細 木 和 茂

まずはすべての指標を5段階で評価する



5段階

- すべてのデータの8割程度は定量評価できる
- その推移も2%以上の改善が半分以上の項目で見られる

4段階

- 半分程度の定量評価が出来ている
- その推移も1%以上の改善がみられる

3段階

- 一通りのデータは存在する

2段階

- データはあるが、定義、計算式、範囲などまだ確定できない
- これから確定する

1段階

- データがない
- これから収集

重要指標が大量物流とサスロジで何が違うか



大量物流時代

サスロジ時代 + α 評価

コスト

1 個当たりの費用

- ①止めなかった日数
- ②在庫日数
- ③循環利用率

サービス

翌日配送率
締めから出荷までの L T

- ①まとめ出荷率
- ②他社との共同物流率

物流品質

事故率
ミス率
誤出荷率

- ①二酸化炭素排出量の可視化
- ②適正な労働環境への配慮
- ③データによる可視化

コンプライアンス

- ①待機時間 ②契約化率
- ③拘束時間・労働環境指標
- ④GHG (CO₂) 排出量・輸送効率

脱炭素

- ①モーダルシフト率
- ②車輛積載率実車率

リスク回避

- ①共同物流実施率
- ②物流パートナー定着率・満足度
- ③リードタイムの柔軟性（標準納品リードタイム）

レーダーチャートにて自己評価



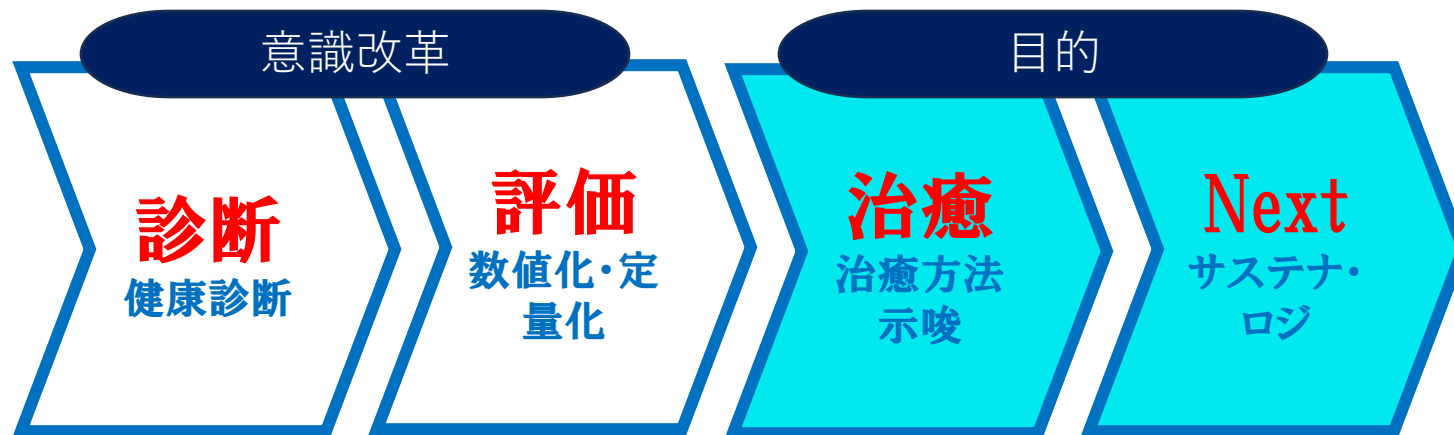
※大量物流時代のQ C Sはソコソコできていても、サスロジの評価は+αかつ新指標が誕生するのでほとんどの会社はレベル1段階

健康診断は入り口、目的はサスロジ達成



CL0の最初の意思決定は健康診断

ロジスティクスこそ、調達から販売そしてリサイクルと領域は拡大しています
しかしその領域全般の業務は専門家でなければ診断・評価できません
そこでLogistics Assessmentを行い、成長の羅針盤にしていだきたいと考えております



「ただ安く運べば良い」から「サステナ・ロジへの変革」が生き残りの条件

先日もCLOを設置している先進企業の事例発表があった



国交省がCLOを「物流に関係する企業活動全体を改革する存在」

CLOは、企業経営全体を俯瞰した判断や調整を行う者であり、ゼネラリストとしての能力も必要となる。中長期計画の作成や定期報告のほか、トラックドライバーの負荷低減や荷役等の効率化など法の趣旨を踏まえつつ、経営幹部として全社的な統括管理を行い、社内外との連携・調整を担う役割が期待されている。その上で、物流統括管理者（CLO）自身がすべてを備えている必要はなく、知識・知見を補完するチーム体制を構築し、業務を推進することが求められている。

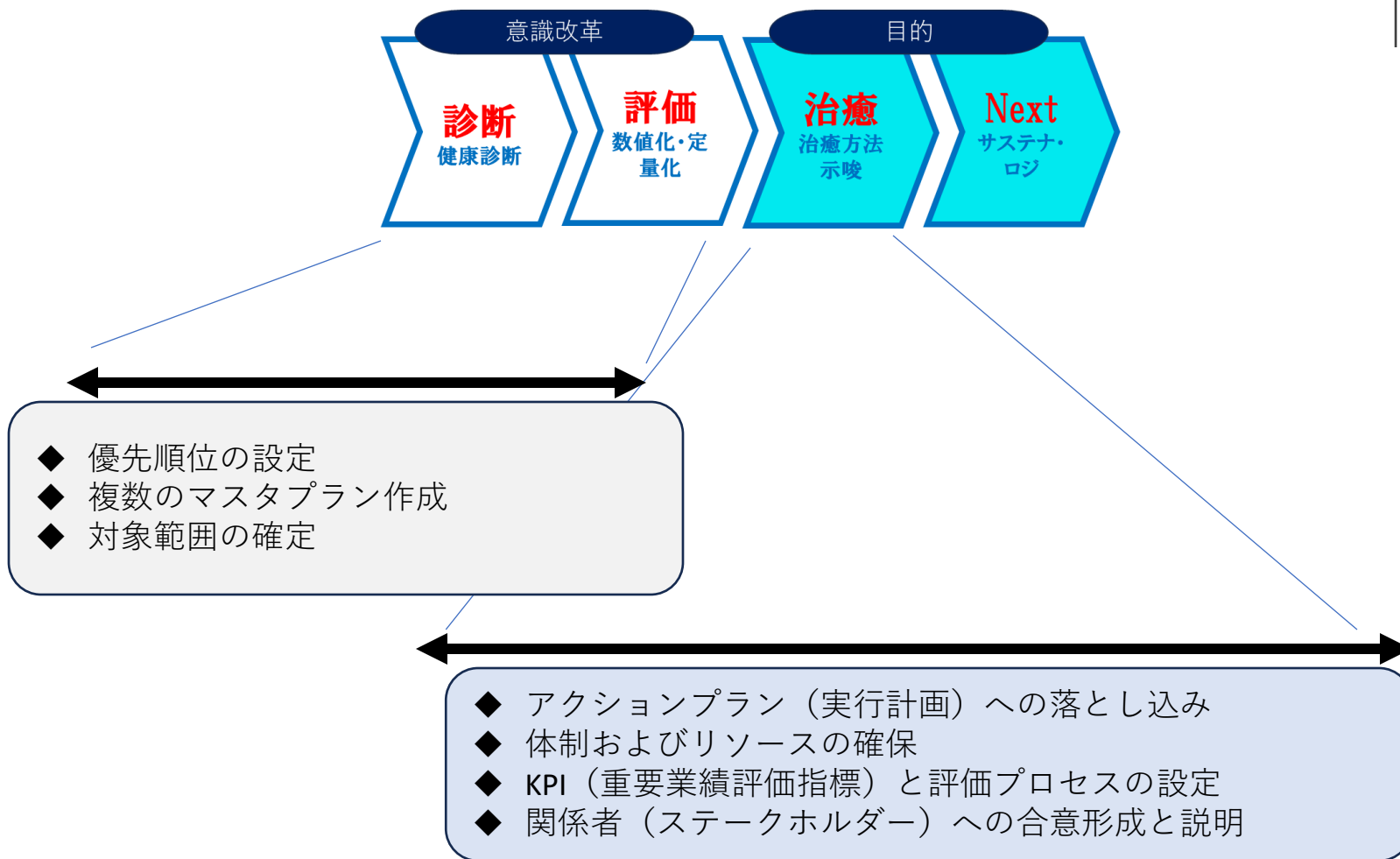


～CLOを設置している先進企業～

森 信介	花王株式会社 執行役員 ロジスティクス部門統括、物流統括管理者
村田 眞一	株式会社SUBARU 執行役員 CLO(最高物流責任者)・物流本部長
田村 幸士	三菱食品株式会社 取締役常務執行役員 SCM統括(兼)CLO

**3人とも最初に手を付けた項目は違っていたが
それは中長期計画に基づいた実施**

日本企業の99%は中堅企業 まずはセルフチェックから



サスロジは以下の10数項目から構成される

